令和５年度愛知県放課後児童支援員キャリアアップ研修
「児童期の発達と遊び」レポート（テーマ３）

あそびばクラブ　島田歩実

子どもの大切な権利である「あそび」について、じっくりと学ばせて頂けてとても実りある時間でした。

子どもたちと生活を一緒にさせて頂いている中で、「あそんでいるな」と感じる場面は多いですが、「あそぶ」ってそもそも何だろう？とこの講義を受けて考えさせられました。あそびとは、「自由である」「創意工夫・試行錯誤をするもの」「能動的であり主体的なもの」「楽しいからする。結果よりも過程が重要なもの」「評価の対象にならないもの」と仰っていました。この文面を見るとやっぱりあそびってとてもわくわくするものだよなと感じます。でも実際は、「ボンドや折り紙のあの使い方はどうなんだろう？」「座布団をひとりで５枚も使っちゃうのはどうする？」とか、子どもたちのあそびを見ていて私たち大人はそんなことを職員会議で話し合っています。自由でありわくわくするもの、として十分にのびのびと見守ること。加えて、決して何でも OK なわけではなく、「安全にあそぶこと」「物を大切に使うこと」「友達と順番に使う、譲り合って使うこと」等、あそびの中で学ぶことができることもたくさんあって、伝えていくことも大切にしたいなと思うと、「あそび」の中での大人の立ち位置、介入していくバランスって難しいなと日々感じます。あそびの中の大人の役割として、「仲間として一緒にあそびながら、あそびの幅やあそぶ子どもの幅を広げること。幸福感を増やすことが大切である」と今回教えて頂きました。この“幸福感”というワードが特に印象に残っています。

大人がいなくても、どんどん自分たちであそんでいく小学生。むしろ側にいないでよと思うかもしれないですが、「やってみたらあれ意外と楽しかった」「こつこつ練習したらできるようになって嬉しい、もっとやってみたい」「ひとりではできない、味わうことができないけど、みんなと一緒だったから楽しかった」「一緒にあそんで楽しいと思うことができる仲間が増えた」等、そんな幸福感をできるだけたくさん味わわせてあげたいなと思いました。私も一緒に全力で楽しみながら、あそびの中で子どもたちの幸福感を増やしていけるきっかけをつくるお手伝いが側でできたらいいなと思いました。もうひとつ大切にしたいなと思ったこととして、「ゆるむこと」です。あそびとは「まじめ(緊張)の間にゆるみをつくりだせること」とも仰っていました。何かしていなければいけないわけではないし、ぼーっとする時間やただ大人にごろーんってもたれかかる時間も大切にしていける環境にしたいなと思いました。

学童の子どもたちの生活の中には、おやつ、宿題と同じように当たり前のように「あそび」という時間が生活の中に含まれていますが、自分でも意識をしていないうちにどんどんその時間って減っていくことも実感しました。大人になっていくにつれて、あそぶ時間というのは当たり前にはなくて、自らその時間をつくりだしていくようになるんだなと感じます。以前 one テーマ会にて保護者さんから、「子どもたちの自由な時間は平日はほとんどない」

というお話も多くお聞きして、「子どもたち本当に毎日頑張っているな」とも改めて思いました。「放課後は心と体を癒す時間」「大人になっていくまでの準備期間でもある」「アホみたいにあそぶって大事だよ」と仰っていたように、小学生の「今」だからこそ、全力であそび全力でゆるみ癒される時間を、側にいる私たち大人が全力でサポートしながら、できる限り同じ温度感で一緒に楽しんでいけたらいいなと感じました。

グループワークにて、「今部屋にある、基本的にあそび道具ではないものであそびを考えてシェアしてみましょう」というお題を皆さんと取り組みました。思ったことは「自分頭かったいなぁ」ということです。小学生の頃の自分は、庭の草を抜いてガーデニングをしたり、1ヶ月後に開封しちゃうタイムカプセルを友達と埋めたり。今思うとなにやってんだろうと思ってしまいますが、たぶん特別に何も考えてなくて、でもとっても楽しかったなと思います。大人になった自分はワークの中で、「これってあそびって言えるのかな？」「これって楽しいの？」とかいろいろ考えすぎてしまっていることに気付かされました。小学生の今だからこそ、うみ出されるものなのかもしれない子どもたちの柔軟な発想力を、認め、存分にいかすことができる環境をこれからも大切に守っていこうと思いました。

子どもたちがよく、「あそびばクラブなんだからあそぶんでしょ！」と言います。その名のとおり、たくさんめいっぱいあそんで、「たくさんあそんだなぁ」「楽しかったなぁ」と思うことができる生活をこれからも子どもたちと一緒に楽しんでいきたいなと感じました。